

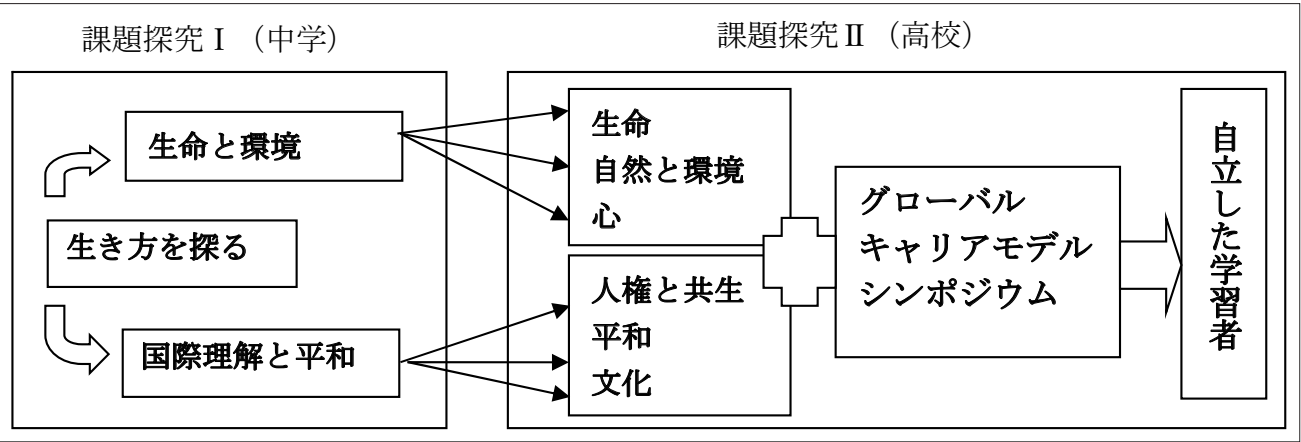
グローバルキャリアシンポジウム

三小田 博 昭

(1) 目的

本校には在学中にNPOプロジェクトを実行するなど、行動力のある中高生もいるが、多くは学校での学びが「知識」に留まり、行動にまで至っていない。これは、生徒が行動に移す目標としてのグローバルキャリアモデルが身近にいないため、自分の夢を持つことや学びの先

にある自分が想像できないことが原因であると考えている。そのために、企業・公的機関・国際機関の関係者等、グローバルキャリアモデルのリレーシンポジウムを継続的・効果的に取り入れることで、課題研究が将来のキャリアの形成に繋がり、探究的な活動の質が深まると考え、グローバルキャリアシンポジウムを実施する。



(2) 実施計画

平成29年度は以下のようにグローバルキャリアモデルシンポジウムを実施した

日にち	講師 (敬称略)	所属	備考
7月3日(火)	天野 浩	名古屋大学 特別教授	ノーベル 物理学賞
6月28日(木)	大野えり	ジャズ歌手	本校卒業生

H30年度のグローバルキャリアモデルシンポジウムは、さくらサイエンス事業（JST主催 名古屋大学共催）で天野浩（ノーベル物理学賞受賞者）先生と本校卒業生でジャズ歌手として活躍中の大野えりさんをお招きして実施した。1回目の天野浩先生の時には、名古屋大学豊田講堂を会場に、留学生72名も本校生徒と一緒に参加した。シンポジウム司会は本校生徒が英語で行いシンポジウムの進行にあたった。また今回の、グローバルキャリアモデルシンポジウムは、シンポジウムのあと、本校生徒120名と留学生72名とその引率教員13名とが混合グループを作り昼食交流会を行った。昼食を一緒に食べながら、双方の学校生活の様子や天野先生のお話の内容について意見交換をした。2回目の大野えりさんの時

には本校交流ホールでシンポジウムを開催し、生のジャズ演奏と軽快なトークに本校生徒は魅了された。最後には、高校生に対して厚いメッセージが送られた。第1回・第2回ともにスケジュールは以下のである。

第1回 7月3日（火）講師：天野浩先生

参加生徒：本校高校1年 120名
留学生72名（中国42名 モンゴル10名 ウズベキスタン10名 ブータン10名）
引率教員13名

（本校生徒の声）

- ・ 質疑応答の時、ブータンの人が時刻のことを真剣に、未来を見据えた質問をしていたのが非常に印象的だった。あのような内容を、しかも英語でノーベル賞受賞者に質問するのはなかなかできることではないと思う。天野先生の講演も受賞時、自分が無名であったことをおもしろおかしく伝えるなど、とても楽しんで聞くことができました。
- ・ 天野先生がノーベル賞を受賞したことを知ったときのエピソードがとても面白かった。赤と緑と青色LEDが何の物質で光るのかも理解できたし、青色LEDに

もっと興味を持つようになった。この「さくらサイエンス」では、なかなかできない貴重な体験ができた。

- ・内容はとても難しかったけれど、分かりやすい英語と文法で説明してくださって、理解できるところがたくさんあって良かった。「InnovationとInventionの話」が印象に残っている。中国の子たちとの交流も楽しかった。同年代の外国の子たちとお話をする機会はなかなかなくて茂樹をもらえた。どちらも貴重なよい経験になりました。
- ・「ゴールをイメージする」という言葉が、すごく印象に残った。私も今の實力ではできないからとあきらめるのではなく、少し遠い未来だったとしてもゴールをイメージして、目的を持って日々やるべきことをやっていこうと思った。外国の人たちは日本人より積極的だし、英語で話すことも得意だったので負けないようにがんばらなきゃ、と思った。

(参加した留学生の声)

- ・附属高校や研究所などを統合した学術機関であり、教育サービスの水準も高いため。先進的な科学技術を知り、ノーベル賞受賞者の講演を聞くことを通じて考え方の境界を広げることができた。日本の文化の魅力を体験できた。
- ・皆さんとの交流が楽しかった。名古屋大学附属高校の生徒は深い印象を残してくれた。とても友好的で、楽しい時を過ごした。
- ・天野教授の話ぶりは、ユーモアがあって、エネルギッシュだった。雰囲気も活気があった。大学の博物館では、私たちのためにクイズラリーを用意してくれていた。高校生たちはとても温かく、一緒に過ごせて楽しかった。
- ・名大附属の高校生はとても友好的で、名古屋大学の環境はとても素晴らしく、名古屋大学で学ぶ機会もある。外国人留学生の説明プログラムはとても興味深かった。天野教授のイノベーションに関する講演を聞いて、イノベーションに関する興味が湧き起こった。



(天野先生に質問する本稿生徒)

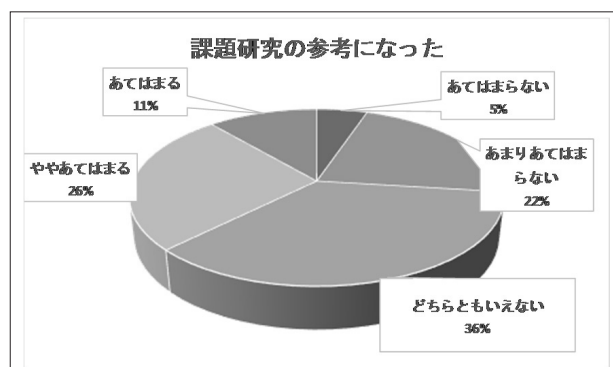
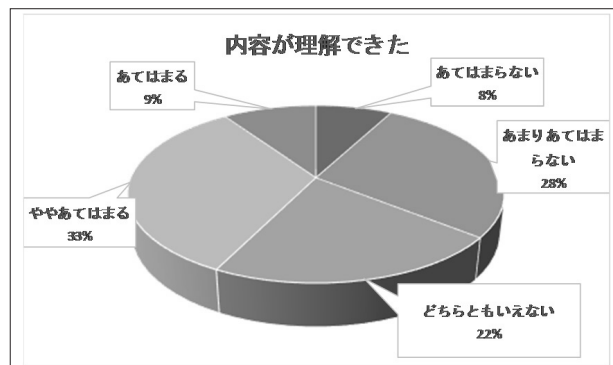


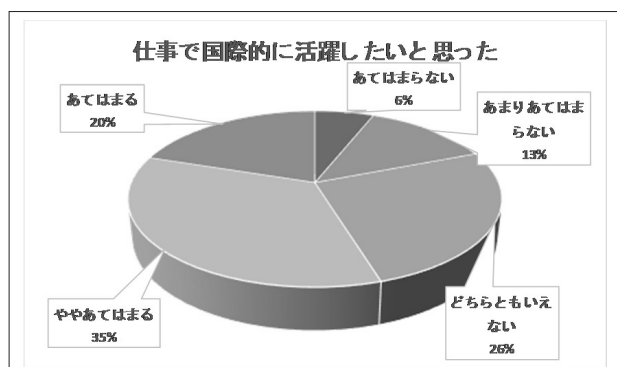
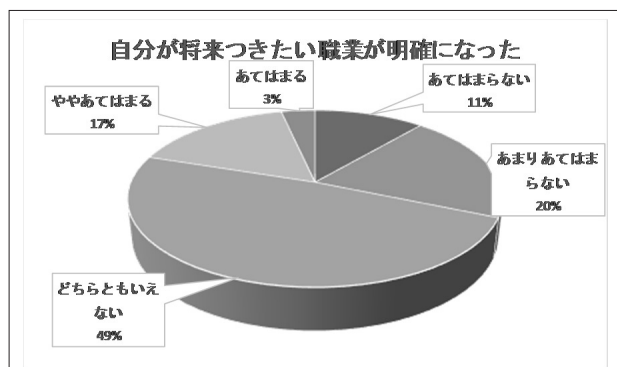
(昼食交流会の様子)



(交流会全体の様子)

生徒振り返りアンケートの結果





日頃、聞く機会があまりない、ノーベル賞受賞者・天野浩先生のお話を直接聞くことができた。グローバルキャリアモデルシンポジウムの目的の一つである、「課題研究が将来のキャリアの形成に繋がる」ことに対して多くの生徒は、今後、「仕事で国際的に活躍したいと思った」ことがアンケートからわかる。英語での講演ではあったが、半数近くの生徒が講演内容を理解できていた。自由記述アンケートからは、同世代の留学生と同じ講演を同じ会場で聞くことで、大きな刺激をうけたことがわかる。アジアからの留学生が多かったが、将来のビジョンを明確に持ち、高い英語力を持っている高校生が多いことがよく分かったようだ。今回のグローバルキャリアモデルシンポジウムはすべて英語で行われた。本校生徒が司会を任されていたが、司会者を募る上で多くの立候補者がでたことはSGHの成果であると考え、司会者を選ぶオーディションを行いその中から当日の司会者が選考された。



(司会者選考会の様子)

第2回 6月28日(木) 講師：大野えりさん

参加生徒： 本校高校1年 120名

(本校生徒の声)

- ・うさぎとかめの話がとても印象に残った。いままで私はうさぎがサボっていたから負けたと思っていたけど、かめを見て走ったうさぎと、自分のゴールを見て走ったかめの話だったら私はかめになりたいと思った。また、質問で自分にじしんを持つ方法について自信がないこともたくさんあるけれど、それを乗り越えると大野さんはおっしゃっていて、強いなと思った。私も強い人になりたい。ジャズをきちんと聴いたのは初めてだけれどとても感動した。良い経験になりました。
- ・「自分がやってきたことはすべて無駄にはならない」という言葉が印象的でした。私はよくこんなことをして無駄だなあと思うので、今回の講演を聴いて、今自分がやっていることはいつか役に立つんだなと思いました。なので今のうちにいろいろなことを経験して、たくさん失敗して、悔いのない人生を送っていきたいと思います。
- ・感銘をうけた言葉の一つには絞れず、彼女の言っていたことすべてに感銘を受けました。「自分だけを見つめて努力する」「人間の命はいつ失うかわからないほど短いのに、人々は好んで戦争をする」「大切なものは突然失うものだし、自分の命も例外ではない。だから自分の道は自分で切り開く」今まで自分には不可能だと思っていたものもチャレンジしようと思いましたし、私が大人になったとき、人間の一人としてよい未来を作りあげようと思いました。そして今、高校生という期間を大切に、自分の生き方を考えて楽しみたいと思います。
- ・私は大野えりさんが話している話の中で、「自分に自信を持つには」という話にとっても感銘を受けました。ずっと自信のある人なんていない。いつも自信は波のような状態だからこそ、人と比較せず、昨日の自分と今日の自分、今日の自分と明日の自分というよう

に自分と比べて自信をつけていくという話にとっても納得しました。そして今、自分がやっていることに無駄なことはないの、自分に負けないで自分がやっていることをし続けて欲しいという話に感銘を受けました。



(熱唱中の大野えりさん)



(生徒に問いかける)

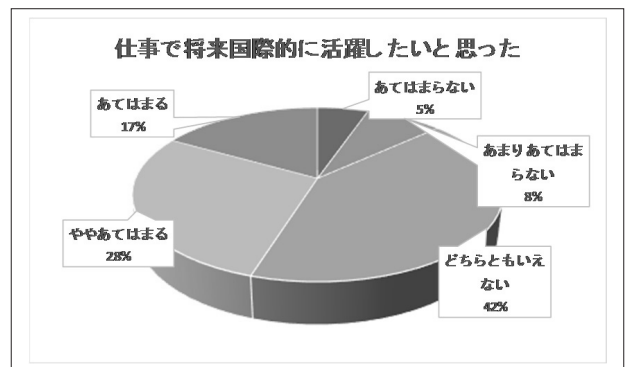
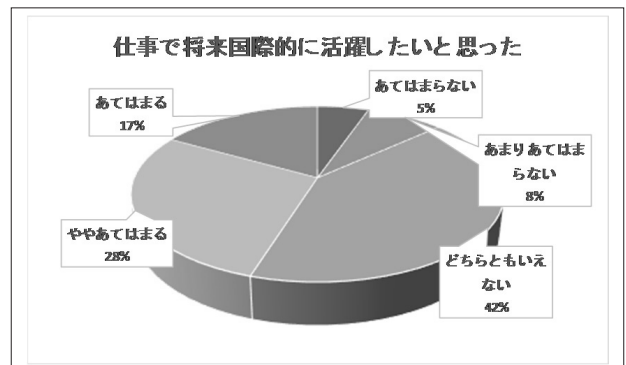
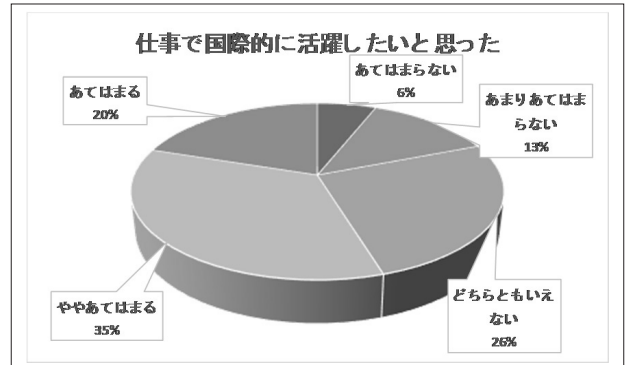
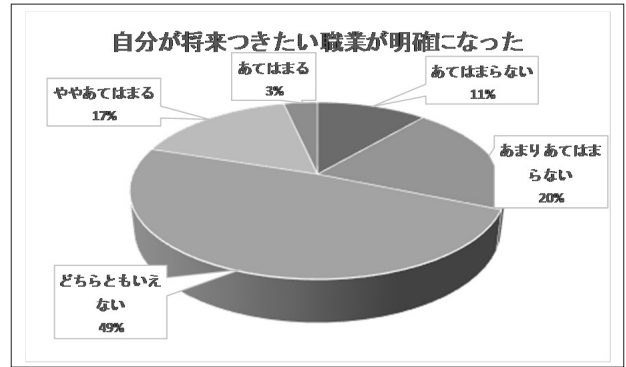


(生徒に語りかける)



(アンコールに答えて)

生徒振り返りアンケートの結果



講演の内容が、身近な問題に多く関係したため、ほとんどの生徒が講演内容を理解することができた。また、高校1年生に分かりやすいようにお話をしてくださったことで、生徒の集中力が最後まで続いた。自分たちが今後行う「課題研究」にも結びついたことがアンケート結果からもわかる。今回は、これまでにはなかったジャンルでのお話であったが、大野えりさんが卒業生であった

ということからも、生徒達は非常に身近な存在に感じられた様子であった。ホンモノと接することの大切さを直接生徒達は感じたことが自由記述アンケートからも分かる。多くの生徒が、そのパワーと大野さんが発するオーラに取りこまれた。今回のグローバルキャリアモデルシンポジウムには卒業生も多く参加し、卒業生ネットワークが拡大したことも成果である。

第3回 10月12日（金）「センポ・スギハラ・メモリアル」の完成記念式典

参加生徒：本校高校生6名と本校が招聘したリトアニアの高校生10名

会場 愛知県立瑞陵高等学校



（本校が招聘したリトアニアの高校生）



（代表生徒によるスピーチ）

平成30年度から、新しい国際交流がスタートした。足し報告はリトアニア共和国である。SGH校の中でもリトアニア共和国と交流をしている学校は多くはない。リトアニアといえば、「命のビザ」で有名な杉原千畝である。杉原千畝は、愛知県立瑞陵高等学校を卒業している。その縁がきっかけとなり、愛知県立瑞陵高等学校と連携したSGHが開始された。折しも、今年度、愛知県が県立瑞陵高等学校内に「センポ・スギハラ・メモリアル」を建

設した。その記念式典が10月12日に県立瑞陵高等学校内で開催された。それに本校生徒6名とリトアニアの高校生10名が参加した。記念式典では、大村愛知県知事、駐日イスラエル大使館、駐日ポーランド共和国大使館、外務省、杉原家、ロサンゼルス・サイナイテンプレート代表者等関係者が招かれ、その代表者が講演を行った。そのようすは、翌日のNYタイムズにも記事が掲載された。



（講演会に参加したリトアニア生徒と本校生徒）

3月には、瑞陵高等学校生徒6名と本校生徒6名がリトアニアを訪問し、交流校となるSholom Aleichem ORT High schoolの生徒たちと杉原千畝をテーマに協同で課題研究を開始する。この新しい国際交流の開始により、これまでSGHで行ってきた研究開発単位Ⅲ（グローバル拠点の形成）におけるアジア拠点、北米拠点に加え、ヨーロッパ拠点が加わることとなる。また、SGHコンソーシアムの構築の一つとして県立瑞陵高等学校が加わることとなった。

（文責 三小田博昭）